

【本教材について】

- テーマ： 2. 災害から住民の命を守るには
- 単元名： 2. 地域ぐるみで支える要配慮者の避難
- 所要時間： 60分程度
- 準備：
 1. ワークで使用する資料とボールペン1本をを参加者に配布して下さい。
 2. 適宜、スライドの追加や変更をすることができます。参加者の特性（自主防災組織等の会長が多いか、在職期間が長いかなど）に応じて、内容の追加・削減や修正・変更を検討することで、より良い研修効果が期待できます。
 3. **黄色い網掛け部分**は、自治体で定めている事項に合わせてください。
※網掛けのないページ、文章・図表も、必要に応じてカスタマイズしてください。
 4. 自治体で作成している個別避難計画の説明を追加する等、カスタマイズを検討するとよりよい効果が期待できます。

自主防災組織等のリーダー育成研修

《 テーマ2 》

災害から住民の命を守るには

2. 地域ぐるみで支える 要配慮者の避難

学習目標と内容

<学習目標>

- 災害時に支援が必要な要配慮者の特性や、具体的な避難支援について理解できる
- 要配慮者への避難支援について、平常時から取組むべきことについて理解できる

<目次>

- (1) 要配慮者への避難支援の必要性
- (2) 平常時の取組

(1) 要配慮者への避難支援の 必要性

要配慮者とは

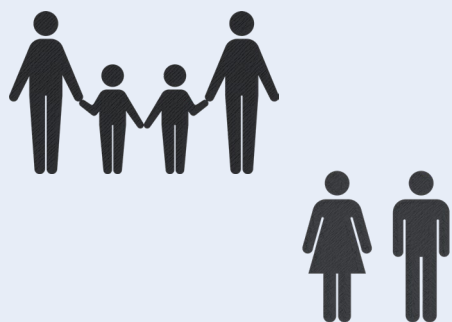
高齢者、障害者、乳幼児、その他の特に配慮を要する方のこと



避難行動要支援者とは

自力で避難することが難しく、避難の支援が必要な方を「避難行動要支援者」という

地域住民



自らの命は
自らが守る

要配慮者



高齢者
(要介護度低)
障害者(軽度)
乳幼児
妊婦
外国人
など

支援が必要な人は
地域で支える

避難行動要支援者

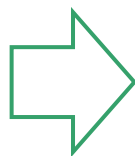


高齢者
(要介護度高)
障害者(重度)
難病患者
など

行政と地域が
協力して避難支援

避難行動要支援者が避難のときに困ること

情報収集と
危険の察知



避難の判断



避難行動

例えば・・・

聴覚や視覚に
障害のある方



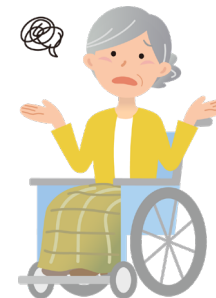
避難情報や
危険の徴候を
把握しにくい

理解に時間がかかる、
判断しにくい方



避難が必要か
判断することが
難しい

杖や歩行器、車いすを
使う必要がある方



自力で避難場所
まで移動すること
が難しい

避難支援の必要性

過去の災害では、多くの要支援者が犠牲になっている

● 過去の災害における実態

<東日本大震災>

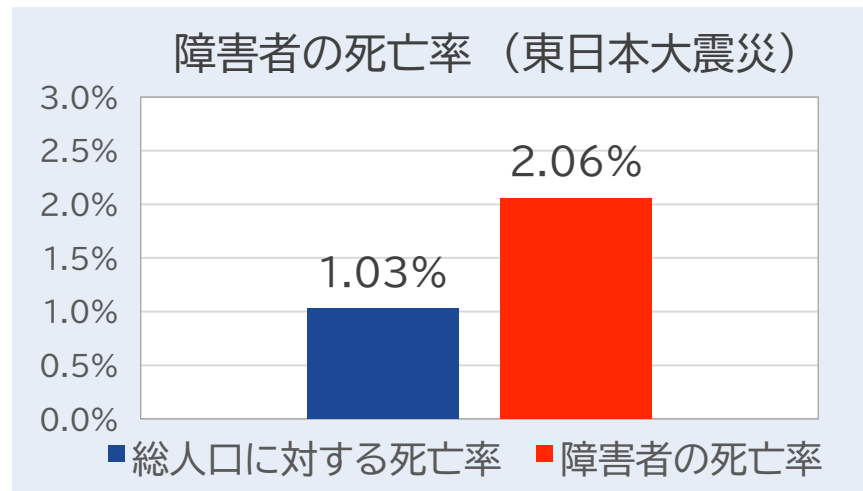
岩手県、宮城県、福島県の被災地
全体の死者数のうち、

✓ **障害者の死亡率**は被災住民
全体の死亡率の**約2倍**

<平成30年7月豪雨>

被害の大きかった愛媛県、岡山県、広島県の原因別死者数の年代をみると、

✓ **60代以上の割合が約7割**



参考:内閣府「障がい者制度改革推進会議(第37回) 参考資料4 東日本大震災における障害者の死亡率」

※原典は「ノーマライゼーション2011年11月号」を基に作図

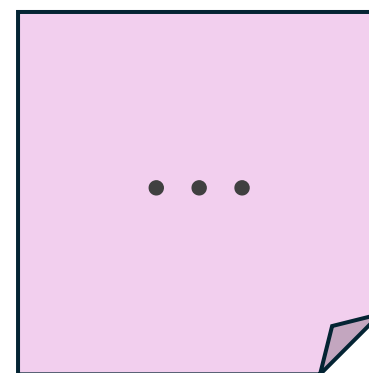
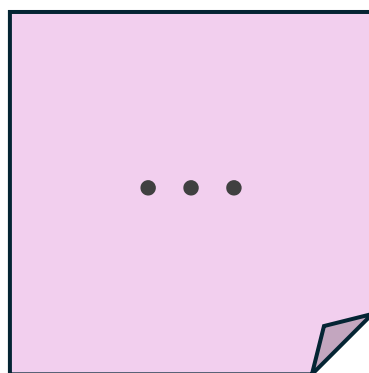
内閣府「平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ(第1回) 平成30年7月豪雨の概要」

災害時には、
どのような支援が
必要となるでしょうか？

【個人ワーク】自力避難が困難な人を書き出す

自力避難が困難な人はどのような人がいるか、
ピンクの付箋紙に書いてください

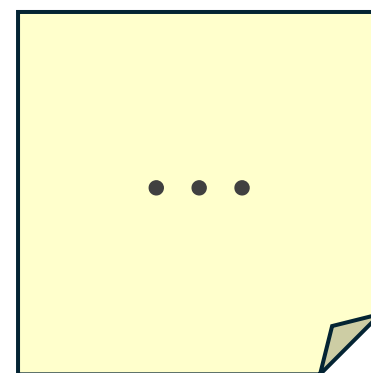
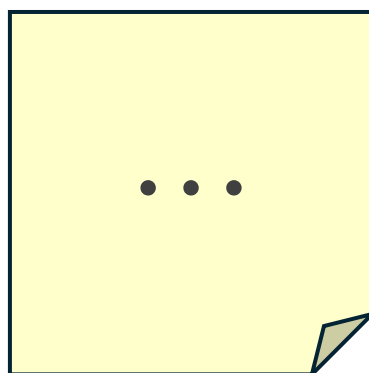
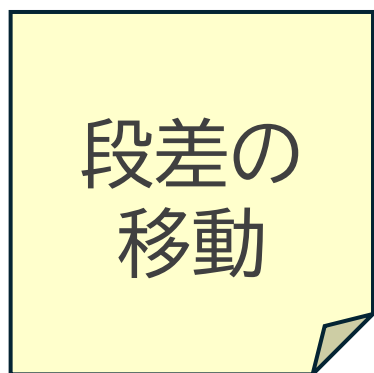
- ✓ 付箋紙1枚に、1つの項目
- ✓ 思いつく限り書き出す



【個人ワーク】どのようなことに困るか、書き出す

自力避難が困難な人がどのようなことに困るか、
黄色の付箋紙に書いてください

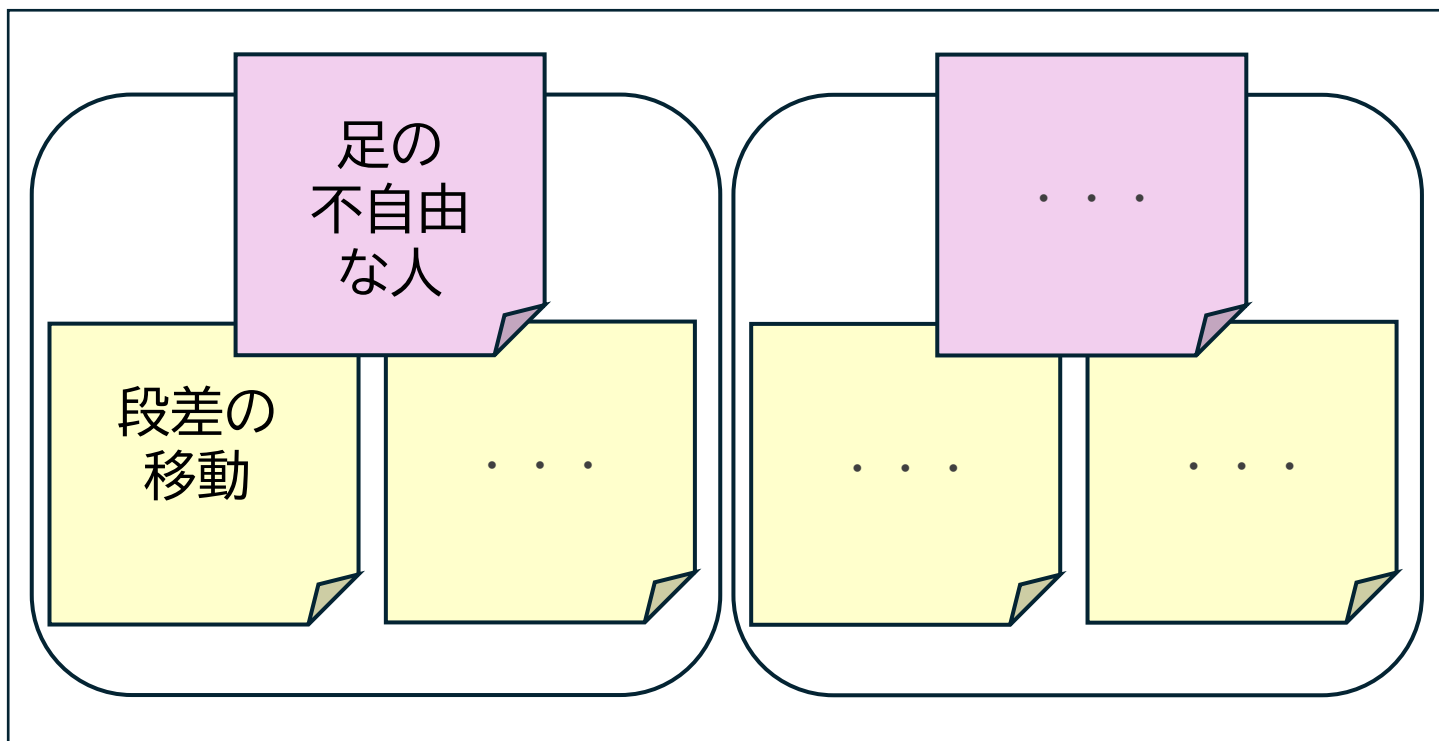
- ✓ 付箋紙1枚に、1つの項目
- ✓ 思いつく限り書き出す



【グループワーク】共有し、整理する

<グループ検討>

- ✓ グループ内で、模造紙に整理してください
- ✓ 同じものがあれば重ねます



発表

要配慮者の心配ごと・配慮してほしいこと(例)

高齢者



階段を降りられないため、
停電でエレベーターが
停止したら避難できない

手伝ってくれる人がいれ
ば車いすで移動できる

視覚障害



避難所での配慮より、
まず避難所にたどり
着けるかどうか心配

一人で動けるが、障害物
が怖い。誰かがいてくれ
れば安心する

車いすの方



避難する人と車いすが
ぶつかり、ひっくり返る
のではないかと不安

車いすのタイヤは
空気ゴムなので、がれきや
ガラスが散らばっていると
パンクして動けない

聴覚障害



会話はできるが、マイクの
音声は聞き取れないので、
文字に書いてほしい

ゆっくり話してほしい
(口を見て聞いている)

避難時における配慮・支援①

要配慮者一人ひとりの特性に応じた避難行動の支援が必要

要配慮者	困りごと(例)	必要な配慮・支援(例)
高齢者 (特に要介護高齢者)	緊急判断や素早い行動ができない 足腰が弱く、段差の登り降り等が難しい	<ul style="list-style-type: none">優先的な安否確認と避難誘導自力で移動できる範囲に適切な避難場所が確保できない場合、移動手段を確保する徘徊の症状がある認知症の方は、行方不明にならないよう周りの方に声かけ等の配慮を要請する
知的障害者	環境変化に対応できない 情報が理解できない	<ul style="list-style-type: none">家族を通じた情報等の提供動揺している場合は、気持ちを落ち着かせながら安全な場所へ誘導し、避難行動を支援する

避難時における配慮・支援②

要配慮者	困りごと(例)	必要な配慮・支援(例)
視覚障害者	目視による状況把握ができない	<ul style="list-style-type: none">支援者は半歩程度前に出て、移動時に状況を説明しながら進む移動経路上に障害物があるべくないルートを選ぶ
聴覚障害者	音声情報が伝わらない	<ul style="list-style-type: none">どのような方法でコミュニケーションをとればよいか初めに確認する口の動きが見えるようにする必要な情報は、印刷物や書き物で伝達
精神障害者	精神的動揺が激しくなる場合がある	<ul style="list-style-type: none">落ち着いて行動しようと声をかける孤立しないよう家族や周囲にいる人と一緒に避難する
肢体不自由者	補助具がない場合、自力での移動が困難	<ul style="list-style-type: none">本人に確認の上、避難の補助車いす等の補装具及び通れる通路を確保複数人で避難の補助を行う

避難時における配慮・支援③

要配慮者	困りごと(例)	必要な配慮・支援(例)
難病患者	外見から分かりにくい 避難に時間を要する場合がある	<ul style="list-style-type: none">療養者の状態をよく確認したうえで、避難させる落ち着いて一緒に避難する
妊産婦	月数によっては身体が思うように動かないことがある	<ul style="list-style-type: none">避難支援が必要か確認し、必要に応じて一緒に避難する
乳幼児	自ら判断して避難する能力がなく、常に保護者のサポートが必要	<ul style="list-style-type: none">大人が動揺すると子供にも伝わってしまうので、できるだけ普段通り接する赤ちゃんの場合は抱っこ・おんぶひもを使って避難する
外国人	日本語での避難情報等が伝わらない	<ul style="list-style-type: none">簡単な日本語やイラスト、身ぶり手ぶりを使ってコミュニケーションをとる孤立させないように一緒に避難する

【事例】避難支援体制を確保するための取組①

■「支え合いマップ」の作成（堀之内区自主防災組織：長野県 白馬村）

- 誰が誰の安否確認を行うのか支え合いマップ作成で特定
 - ✓ 対象者(要配慮者)、組長、民生委員等を中心に調整し、それぞれの対象者(要配慮者)に対して、支援者を特定し、マップ上に表示
 - ✓ マップの対象者には、常日頃から、民生委員を中心とした見守り活動を実施
 - ✓ 平成26年11月に発生した地震発生時(最大震度6弱)に、円滑に安否確認や避難支援ができた
- 自治会役員と民生委員が連携してマップを作成
- 毎年更新できる名簿が必要との認識が浸透した



災害時住民支え合いマップづくりの取組

【事例】避難支援体制を確保するための取組②

■「地域タイムライン」の作成（長野県伊那市）

- 地域でタイムライン(防災行動計画)を作成し、逃げ遅れゼロの達成を目指している。作成のポイントは以下の5つ
 - 1 気象や河川等の各種情報の発信タイミング・内容確認
 - 2 避難情報の警戒レベル等に応じた行動を確認
 - 3 「いつ」行動開始するか
 - 4 「誰が」するのかの検討
 - 特に、支援者や要配慮者で打合せし、お互いの動きを把握する
 - 5 「何を」するのかの検討
 - 災害対応や避難行動支援の協力関係や、役割分担の確認
- 令和3年8月豪雨の際、地域タイムラインを作成した地区で声かけや安否確認などが、早い段階で実施できた

警戒の時間	警戒レベル	取るべき行動	私の行動	区の行動
3日前後	レベル1	気象・河川等の各種情報の発信タイミング・内容確認 避難情報の警戒レベル等に応じた行動を確認	気象・河川等の各種情報の発信タイミング・内容確認 避難情報の警戒レベル等に応じた行動を確認	気象・河川等の各種情報の発信タイミング・内容確認 避難情報の警戒レベル等に応じた行動を確認
2日前後 1日前	レベル2	気象・河川等の各種情報の発信タイミング・内容確認 避難情報の警戒レベル等に応じた行動を確認	気象・河川等の各種情報の発信タイミング・内容確認 避難情報の警戒レベル等に応じた行動を確認	気象・河川等の各種情報の発信タイミング・内容確認 避難情報の警戒レベル等に応じた行動を確認
1日前	レベル3 高齢者等避難	気象・河川等の各種情報の発信タイミング・内容確認 避難情報の警戒レベル等に応じた行動を確認	気象・河川等の各種情報の発信タイミング・内容確認 避難情報の警戒レベル等に応じた行動を確認	気象・河川等の各種情報の発信タイミング・内容確認 避難情報の警戒レベル等に応じた行動を確認
1日前	レベル4 避難指示	気象・河川等の各種情報の発信タイミング・内容確認 避難情報の警戒レベル等に応じた行動を確認	気象・河川等の各種情報の発信タイミング・内容確認 避難情報の警戒レベル等に応じた行動を確認	気象・河川等の各種情報の発信タイミング・内容確認 避難情報の警戒レベル等に応じた行動を確認
1日前	避難指示	気象・河川等の各種情報の発信タイミング・内容確認 避難情報の警戒レベル等に応じた行動を確認	気象・河川等の各種情報の発信タイミング・内容確認 避難情報の警戒レベル等に応じた行動を確認	気象・河川等の各種情報の発信タイミング・内容確認 避難情報の警戒レベル等に応じた行動を確認



(2) 平常時の取組

要配慮者の避難支援のために、
平常時から備えておくべきことは
何でしょうか？

やるべきこと① 支援の体制づくり

自主防災組織や自治会で、災害時に備えた支援体制を整える

● 地区防災計画の作成

- ✓ 地区防災計画とは、地区居住者等が行う自発的な防災活動に関する計画のこと

● 要支援者支援の視点

- ✓ 地域内の要配慮者等の状況、災害時に行う要配慮者支援の取組内容等を事前に検討し、明確化しておく



「地区防災計画」の中に要支援者の支援体制を位置づける

やるべきこと② 避難行動要支援者の把握

■■市から提供される避難行動要支援者名簿をもとに、
支援が必要な人を把握する

● 避難行動要支援者名簿とは

- ✓ 災害時に自ら避難することが困難な方を登載した名簿のこと
- ✓ **避難支援や安否確認、避難生活支援等に利用する目的**で作成

● 自主防災組織への情報提供

- ✓ **要支援者本人が外部への情報提供に同意した場合**、自主防災組織等の避難支援等関係者に**同意者名簿**が提供される※



個人情報のため、提供された名簿の取扱いに注意する

※災害時に緊急性があると認められる場合は、同意を得ていない者の名簿情報も避難支援等関係者に提供される

やるべきこと③ 個別避難計画の作成協力

■■■市が進めている「個別避難計画」の作成に協力する
要支援者ごとの支援方法を理解し、支援準備をする

● 個別避難計画とは

- ✓ 名簿情報に係る避難行動要支援者ごとに、避難支援等を実施するための計画

● 個別避難計画の内容

- ✓ 要支援者がいつ・どこに避難するか、誰が支援するか、避難するときどのような配慮が必要か等



「避難行動要支援者名簿」に掲載されている要支援者のうち、
同意が得られた方のみ「個別避難計画」を作成

個別避難計画の作成に関わる方

地域

自主防災組織、自治会、
民生委員 等

- 地域の状況に詳しい
- 平常時の見守り活動、
災害時の支援を行う



福祉専門職

相談支援事業所、
介護支援専門員 等

- 本人の心身の状況や、
生活実態を把握して
いるため、助言を行う



要支援者本人



市町村

福祉課、防災課、
高齢課、障害課 等

- 市町村内の要支援
者を把握する
- 必要な支援に向け
た調整を行う



**市町村が主体となり、本人や家族も含め、地域、福祉専門職など
様々な方々と連携して作成することが必要**

個別避難計画の作成方法

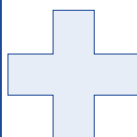
優先順位の高い人から■■市が支援して作成する
それ以外の方は、本人や地域が個別避難計画を作成する

市町村支援による作成

市町村が本人の状況を確認



市町村、本人、家族、地域、
福祉専門職等が話し合い
個別避難計画を作成



本人・地域記入による作成

本人、家族、地域が話し合い
個別避難計画を作成



市町村に提出、確認



※本人や、本人の状況によっては、家族や地域において防災活動を行う
自主防災組織等が記入する計画づくりを進める



作成の方法によって個別避難計画の内容の優劣はない

【参考】個別避難計画に関する よくある質問

Q1



名簿に掲載されている
要支援者全員の「個別避難計画」を
作成しなければならないのですか？

A1

名簿に掲載されている要支援者のうち、作成に同意が得られた方について、個別避難計画を作成します。
また、社会福祉施設の入所者や病院の長期入院患者については、施設の管理者等が介護保険法等に基づく非常災害対策計画を作成することとされています。

Q2



避難支援等実施者として、
もし要支援者を助けられなかったら
どうなりますか？

A2

個別避難計画は、よりよい避難を実現することを目的としたものであり、市町村や個別避難計画作成の関係者に、計画に基づく避難支援等の結果について法的な責任や義務を負わせるものではありません。
また、自分や家族の安全を確保した上で、できる範囲での支援をお願いします。

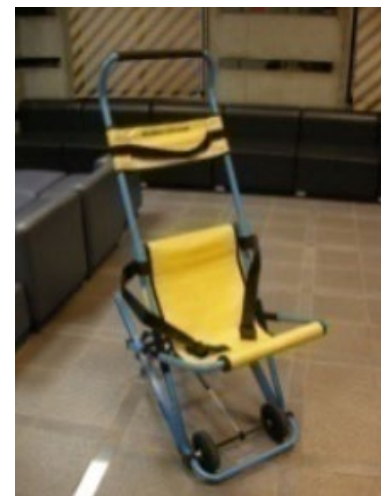
やるべきこと④ 支援に必要な道具の準備

要支援者本人が避難に必要な道具を用意する

● 準備のポイント

- ✓ 杖、歩行器など、避難するときに必要な道具は、**要支援者本人が準備する**よう呼びかける
- ✓ 要支援者が個人で**準備しきれない道具は、自主防災組織、自治会などで用意すること**も検討する

例)階段を下りるための階段避難器具、簡易担架、背負い搬送具、リヤカー、車いす など



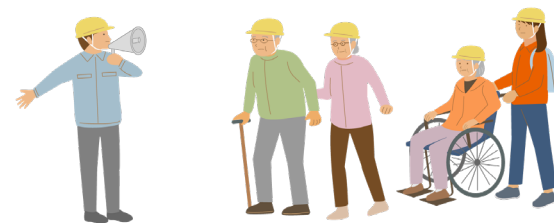
要支援者自身も、基本的には自助の意識をもつよう啓発し、非常用持出品の準備等を促すことが大切

やるべきこと⑤ 訓練の実施

訓練を実施して、避難行動の実効性を高める

● 訓練実施のポイント

- ✓ 作成した名簿、個別避難計画を活用する
- ✓ 準備した道具を使う
- ✓ 実際に避難先への経路を確認する
- ✓ 情報伝達、避難支援等が上手くいくか確認する
- ✓ 要支援者本人が参加しやすくなるよう、親しみやすい名称や取組みやすい内容とする（例 ひなんさんぽ）



要支援者本人と、避難支援等実施者が参加して実施する

【事例】訓練の取組①

■「屋内避難訓練」の実施（高知県黒潮町）

- 「屋内避難訓練」とは、寝室や居間から玄関先まで避難する黒潮町オリジナルの避難訓練のこと
- ベッドから起き上がって玄関先に避難するまでの移動訓練を実施し、家の中の危険箇所や必要な防災対策について確認・説明する

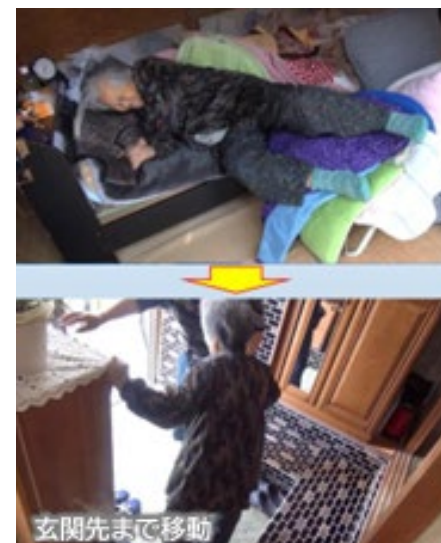
< 訓練のポイント >

✓ 家の中で完結する訓練

起き上がるのがやっとの支援者も参加できる

✓ 家の中の危険箇所を発見できる

訓練を通して、玄関で靴を履く際に靴箱を支えにしているが、固定されておらず災害時に危険性があることが分かった



【事例】訓練の取組②

■「ひなんさんぽ」による避難先への移動（愛知県岡崎市）

- 本人や支援者の負担が少なく計画の実効性を確認することを基本として、避難先まで移動することに限定した「ひなんさんぽ」に取り組んだ。
- 「ひなんさんぽ」とは、要支援者ととともに、個別避難計画で定めた避難施設まで移動することに留めた、岡崎市の取組のこと
- 特別な準備は必要なく、訓練の日程調整のみ行う

<訓練のポイント>

- ✓ 天気の良い日に実施する
天気の良い日を選んで実施することで前向きに楽しく取組むことができる
- ✓ 訓練の形式にこだわらず、計画の実効性の確保にポイントを限定する
避難訓練と聞くと敷居が高いため、まずは計画に定めた避難先までさんぽで移動することに焦点を当てる



参考: 広島市「個別避難計画作成および避難訓練実施に関する事例集」、令和6年3月(令和7年4月改訂)、p. 32

写真出典: 岡崎市地域交流センター&市民活動センター「防災さんぽ～ひなん所までの道を歩こう～」、

<https://station.okazaki-lita.com/works/detail/569>

支援にかかわる地域づくり

普段から、地域内で顔の見える関係づくりを行う

● 地域づくりのポイント

- ✓ 避難行動要支援者を含めて 日頃から顔の見える関係づくりを行う
- ✓ 防災に関する活動のみではなく、地域行事等への参加の呼びかけ、日頃からの声かけや見守り活動を行う



避難行動要支援者が地域で孤立することを防ぐ

まとめ

- 要配慮者の特性に応じた支援の必要性和ポイントを理解しておくことが大切
- 地域の避難行動要支援者を把握し、普段から顔の見える関係を構築する
- 平常時から支援体制や、必要な道具等を整え、訓練を通して災害時に対応できるようにする

【参考】災害時の外国人への情報提供・災害対応支援ツール①

ー ツール例：災害時多言語表示シートー

自治体国際化協会作成資料



災害時多言語表示シート：災害時に避難所や公共交通機関等で掲示する情報掲示シート

- ▶ クリアホームページから誰でも簡単操作で活用可能
- ▶ やさしい日本語を含む13言語対応
 (※) 英語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、中国語（簡体字・繁体字（別個に選択可能））、韓国・朝鮮語、タガログ語、ベトナム語、インドネシア語、タイ語、ミャンマー語、ネパール語
- ▶ 2019年度に交通情報など訪日旅行者支援関連文例、気象情報文例も追加
- ▶ 全396文例（避難所内施設表示案内、医療、水道、トイレ、風呂、利用時間表示、電話関係、ゴミ、配給、ライフライン復旧、交通情報、地震・気象情報、役所からの通知、規則事項、呼びかけ、訓練など）

災害時多言語表示シートSAMPLE

メッセージ番号：0310

(飲料水・食料・毛布) があります。

英語
(Drinking water/ food/ blankets) available .

ベトナム語
Có [(nước uống / thực phẩm / chăn mền)]

中国語 (繁体字)
有 (饮用水・食物・毛毯)

ミャンマー語
(သောက်စရာရေ၊ အစားအစာ၊ စခင်း)များရှိသည်

連絡先 ○○国際交流協会 住所 東京都千代田区花町1-7 電話 03-2222-2222
 ○○こくさいこうりゅうきょうかい FAX 03-2222-2222

【文例】

施設 避難所、受付、救護所、ボランティア受付
 表題 案内、最新情報、生活の注意 外国語の情報がります 通訳がいます
 避難所 無料で利用できます お祈りできるスペースがあります
 医療 医師がいます 応急処置ができます
 水道 この水は飲めません
 トイレ このトイレは使えません
 入浴 入浴時間： : ~ :
 電話 ここで携帯電話の充電ができます
 ゴミ 燃えるごみ、粗大ごみ、
 配給 家族に 個です 食べるものは 時 分に配ります
 地域情報 ガスの使える地域 以下の場所に入浴ができます
 規則 靴をここで脱いでください 火気厳禁 消灯時刻
 交通情報 交通が止まっています 現在、大幅に遅れています
 気象 ~から避難勧告が出されました 大雨 (土砂災害) 台風 高潮

【参考】災害時の外国人への情報提供・災害対応支援ツール①

自治体国際化協会作成資料

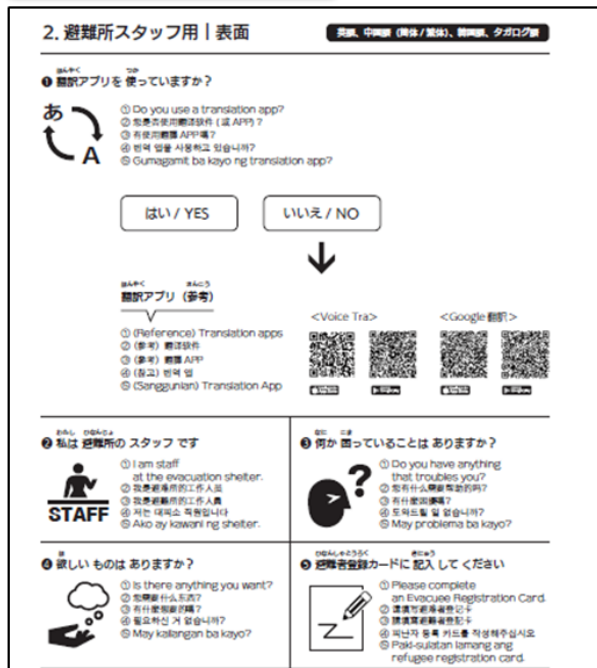


－ ツール例：多言語指さしボード、災害時外国人支援用ピクトグラム －

○ 多言語指さしボード

- ▶ 災害時に避難所等に避難してきた外国人と“とりあえず”のコミュニケーションが出来るツール
- ▶ やさしい日本語を含む14言語対応
- ▶ 避難者登録カードへの記入誘導に対応

多言語指さしボード (サンプル)



○ 災害時外国人支援用ピクトグラム

& 食材の絵文字(FOOD PICT) (R4年度改訂)

- ▶ ピクトグラムに日本語・やさしい日本語・英語での表示文を付記したツールと、食材の絵文字を使用した食べられないもののチェックシート

ピクトグラム (サンプル)

ピクトグラム	表示文
	外国語の情報がありません がいここの おしらせ Information Available in Foreign Languages
	救護所 けがを なおす ところ First Aid
	トイレ Restroom
	この水は飲めます この みずは のむことが できます Drinkable Water
	ここで携帯電話の充電ができます ここで けいたいでんわの じゅうでんが できます Phone Charging Available
	お祈りできる場所があります ここで おいのりが できます Prayer Spaces Available
	ベビーケアルーム あかちゃんの ばしょ Baby-care Room
	授乳室(男女共用) ミルクを あげる ところ(おとこ・おんな) Nursing Room (Male/Female)
	男女共用トイレ といれ(おとこ・おんな) All Gender Restroom
	更衣室(男性用) ふくを きがえる ところ(おとこ) Dressing Room (Male)

食材の絵文字 | FOODPICT

食べられないものにチェックしてください

Please check items that you cannot eat

请在不能吃的食物上打勾

请在不能吃的食物上打勾

익지 못하는 것에 체크를 해 주십시오

Mangyan lamang na lagyan ng check ang hindi nakakaing bagay

Marque o que não pode comer

Marque los alimentos que no puede consumir

Cochez les aliments que vous ne pouvez pas manger

Отметьте те продукты которые Вы не можете употреблять в пищу

Vui lòng đánh dấu vào món bạn không thể ăn được

မှတ်တမ်းတင်ရန်အတွက် မဖြစ်ရန် အစားအသွေးများကို စစ်ဆေးပါ

Centang makanan yang tidak bisa dimakan

wari! Reaksi bisa berpengaruh

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
牛 (おとし) Beef	豚 (ぶた) Pork	鶏 (とり) Chicken	羊 (ひつじ) Lamb	魚 (いさな) Fish
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
貝 (かい) Shellfish	小麦 (こむぎ) Wheat	卵 (たまご) Eggs	乳 (にゅう) Dairy	蕎麦 (そば) Buckwheat
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
落花生 (ピーナツ) Peanut	海老 (えび) Shrimp	蟹 (かに) Crab	酒 (びりゅーる) Alcohol	

図1-1-1 自治体国際化協会 | FOODPICT © INTERNATIONAL & NCC GROUP

(1) 要配慮者への避難支援の必要性

【参考】災害時の外国人への情報提供・災害対応支援ツール②



多言語音声翻訳アプリ
＜ボイストラ＞

無料アプリ

VoiceTra®

話した内容を外国語に翻訳
31言語に対応！

旅行会話に最適！

他のサイズはありますか。

ショッピングで

次の列車は何時ですか。

駅で

穴子ください。

寿司屋で



チェックインは何時ですか。

ホテルで

少し熱があります。

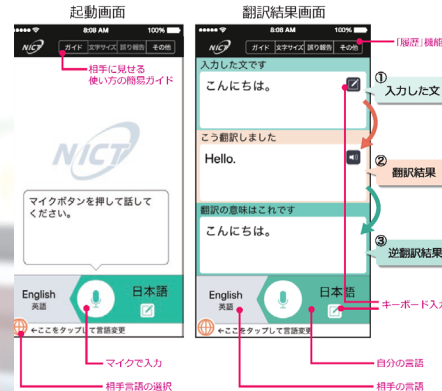
病院で



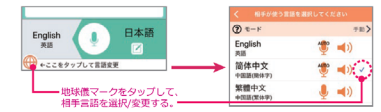
ボイストラ
多言語音声翻訳アプリ VoiceTra は、話しかけたことを翻訳します。
ダウンロード・ご利用は、すべて無料*です。

*本アプリケーションのご利用にはインターネット接続によるデータ通信を必要とします。その際の通信料はご利用者様負担となります。海外でローミング中にご使用の場合、通信料が高額になる場合があります。ご注意ください。

画面の説明

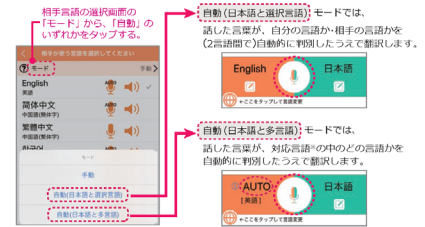


相手言語の選択



一部の言語*で言語の自動判別機能が試せます！

*対応言語は“翻訳できる言語”一覧をご参照ください(AUTO付きマークの言語が対応可)



翻訳できる言語 (31言語)

— 日本語～モンゴル語を重点研究言語(*印は強化対策中言語)としています —

音声で入力できる (22言語対応)		何語かを自動判別もできる (12言語対応)		音声が出力される (21言語対応)	
日本語	ベトナム語	アラビア語	トルコ語	アラビア語	トルコ語
英語	スペイン語	イタリア語	ハンガリー語	イタリア語	ハンガリー語
中国語(简体字)	ミャンマー語	ウクライナ語	ヒンディ語	ウクライナ語	ヒンディ語
中国語(繁体字)	フィリピン語	ウルドゥ語	ポーランド語	ウルドゥ語	ポーランド語
韓国語	ブラジルポルトガル語	オランダ語	ポルトガル語	オランダ語	ポルトガル語
タイ語	クメール語*	シンハラ語	マレー語	シンハラ語	マレー語
フランス語	ネパール語*	デンマーク語	ラーオ語	デンマーク語	ラーオ語
インドネシア語	モンゴル語*	ドイツ語	ロシア語	ドイツ語	ロシア語

*言語数については、中国語の简体字と繁体字は1言語として数えています。

アプリのダウンロードはこちらから

右のQRコードか、下のVoiceTra サポートページの
パナリンクからアクセスしてください。
※アプリのインストール間違いにご注意ください。



VoiceTraサポートページ
<https://voicetra.nict.go.jp/>



Facebookページ @VoiceTra.Support
<https://www.facebook.com/VoiceTra.Support/>



【参考】災害時の外国人への情報提供・災害対応支援ツール②

「VoiceTra」の多言語翻訳技術を活用した民間企業の製品・サービス

<ご利用対象>

 法人向け  個人向け

<提供形態>

 端末  アプリ・ソフトウェア

音声翻訳サービス

●「POCKETALK®S」

ポケットーク(株)



●「VoiceBiz® UCDisplay」

TOPPAN(株)



●「TransDisplay」

VM-FI (台湾, 台北)



●「Fairy I/O® Tumbler T-01」

Fairy Devices(株)



●「eTalk 5 未来PFモデル」

RemoSpace(株)



●「医療通訳タブレット MELON」

コニカミノルタ(株)



●「ハイブリッド式多言語通訳サービス KOTOBAL」

コニカミノルタ(株)



●「ポケットーク」アプリ版

ポケットーク(株)



●「ポケットーク同時通訳」

ポケットーク(株)



●「SmaLingual シリーズ 多言語音声翻訳サービス」

(株) IP DREAM,
スマートカルチャー
ゲートウェイ(株)



●「VoiceBiz®」

TOPPAN(株)



●「RemoteVoice®」

TOPPAN(株)



RemoteVoice

●「mimi® 音声翻訳 powered by NICT」

Fairy Devices(株)



●「Fujitsu Software LiveTalk」

富士通(株)



●「BRIDGE マルチ通訳アプリ」

(株) BRIDGE MULTILINGUAL
SOLUTIONS



●「eTalk5APP 未来PFモデル」

RemoSpace(株)



【参考】災害時の外国人への情報提供・災害対応支援ツール③

－災害時情報提供アプリ「Safety tips」－



機能

- ・自然災害の多い日本において訪日外国人旅行者が安心して旅行できるよう、平成26年10月から提供を開始した観光庁監修の外国人旅行者向け災害時情報提供アプリ。
- ・日本国内における緊急地震速報、津波警報、気象特別警報等をプッシュ型で通知できる他、周囲の状況に照らした避難行動を示した対応フローチャートや周りの人から情報を取るためのコミュニケーションカード、災害時に必要な情報を収集できるリンク集等を提供。

■ 対応言語：14か国語15言語

日本語・英語・中国語（簡体字/繁体字）・韓国語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・タイ語・インドネシア語・タガログ語・ネパール語・クメール語・ビルマ語・モンゴル語

■ アプリ利用料：無料

■ プッシュ通知される情報

緊急地震速報、津波警報、気象警報、噴火速報、台風情報、熱中症情報、国民保護情報、避難情報

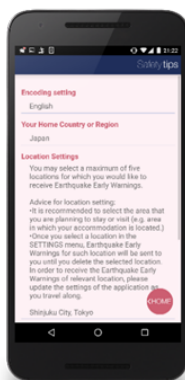


プッシュ通知

とるべき行動

Android:

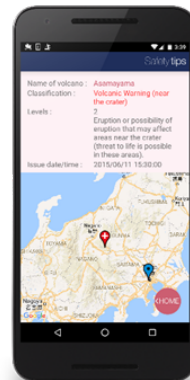
iPhone



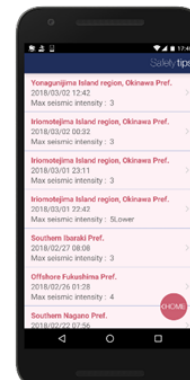
言語はアプリ内
設定ボタンで選択可能



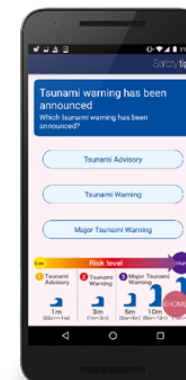
地震発生時の
周辺震度も表示



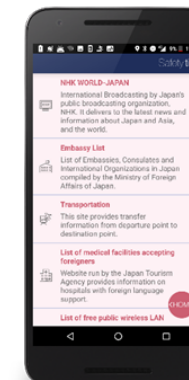
災害発生箇所と
現在地の見える化



災害情報の履歴も表示



対応フローチャート



リンク先

【参考】災害時の外国人への情報提供・災害対応支援ツール③

－災害時情報提供アプリ「Safety tips」－

